

# 立命館アジア太平洋 大学 卒業後アンケート 基礎集計報告書（2022 年）



立命館アジア太平洋大学 IR チーム

メール [irteam@apu.ac.jp]

# 目次

---

調査の概要.....	2
調査の目的.....	2
調査の対象.....	2
調査の方法.....	2
調査の期間.....	2
主な調査項目.....	2
回収の状況.....	3
回答者の属性.....	3
大学時代の様子.....	4
大学卒業後の様子.....	6
卒業直後の進路と現在の職業.....	6
海外での就業経験と転職経験.....	6
卒業後に修得した学位や資格.....	8
大学に対する満足度.....	9
卒業生が考える重要なコンピテンシー.....	11

# 調査の概要

---

## 調査の目的

APU の卒業生が在学中に経験した学びや経験が、卒業後にそれぞれの生活でどのように実践され、役立っているか（有効性）、また卒業生が学びや経験をどう評価しているかを明らかにし、APU が掲げる人材育成目標（APU2030 ビジョン・ディプロマポリシー）の成果検証を卒業後の学生の視点を利用して行い、検証結果を今後の教育の改善活動の取り組みに繋げる。

また、可能な範囲で現在の職業、社会的地位、聞き取り卒業生の個人情報収集し、実態を把握することで、潜在的な支援者の掘り起こしを行う。

## 調査の対象

卒業後 5 年、10 年、15 年にあたる卒業生合計 6852 人のうち、大学にメールアドレスを登録している 4709 人。

調査実施時期	対象卒業年度	対象者数	メールアドレス登録者
2021 年度	2016、2011、2006 年度	3393 人	2411 人
2022 年度	2017、2012、2007 年度	3549 人	2298 人

## 調査の方法

インターネットによるオンライン調査（無記名）アンケートシステム SHANON を利用

## 調査の期間

2022 年 1 月から 5 月 および 2022 年 12 月から 2023 年 1 月末

## 主な調査項目

属性（卒業年度、学部、国内/国際学生、言語基準、国籍）

大学時代の取り組み（学習時間、成績、留学経験）

大学卒業後のこと（現在の居住地、卒業直後の進路、現況、海外での勤務経験、転職経験、卒業後に修得した学位や資格）

APU への満足度、帰属意識、支援意欲

APU で習得した資質・能力に対する評価

年収、社会的地位 \*任意

## 回収の状況

大学がメールアドレスを把握している 4709 人に対しメールの送信を行い、443 人から回答を得られた。（回答率 9.4%）

## 回答者の属性

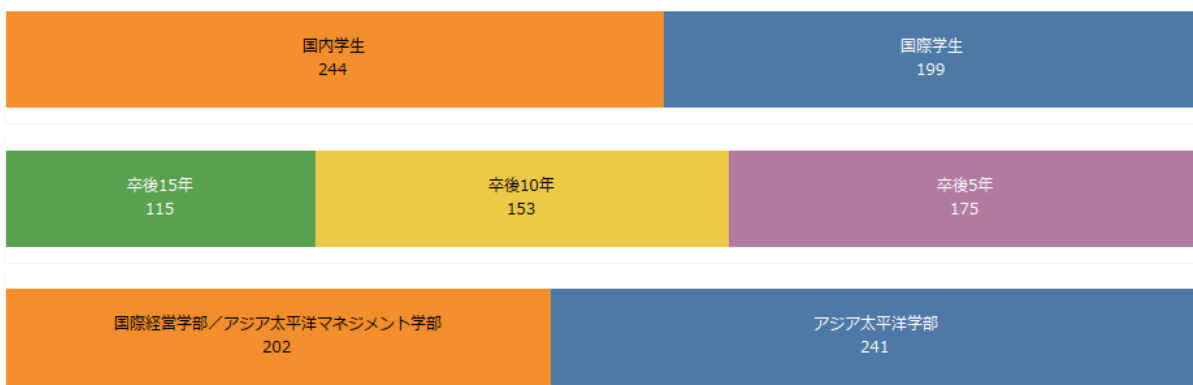
学部別の内訳と国内学生、国際学生（いずれも在学中の状態）の内訳、卒業年度別の内訳を示す。大きな偏りはみられない。卒業後 15 年は卒業生数が卒業後 10 年、5 年よりも少ないため回答者も少なくなっている。回答者の国籍は 34 カ国・地域（日本含む）。

### Summary（回答者数）

学部/College	International..	卒後5年	卒後10年	卒後15年	総計
アジア太平洋 学部	国際学生	30	28	18	76
	国内学生	70	55	40	165
国際経営学部 /アジア太平 洋マネジメン ト学部	国際学生	49	45	29	123
	国内学生	26	25	28	79
総計		175	153	115	443

回答者の属性に大きな偏りは見られない。

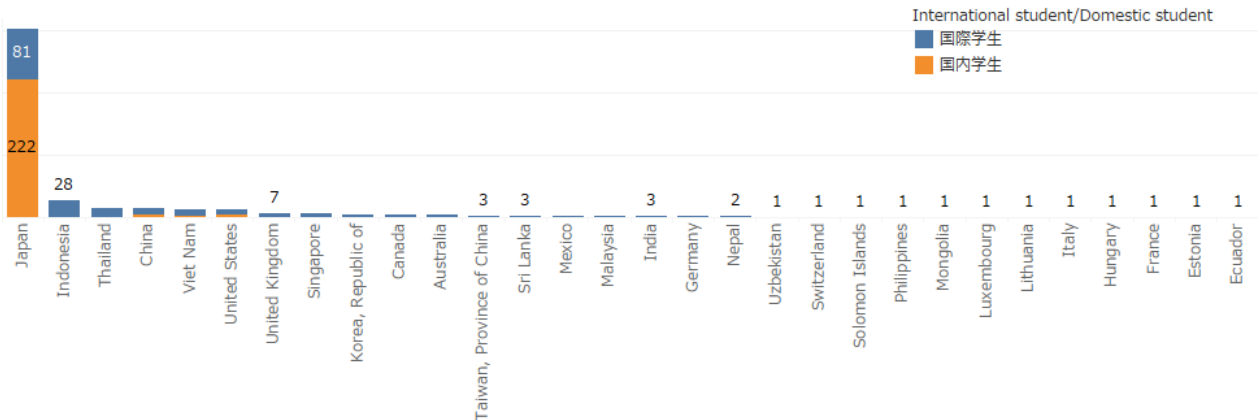
#### 属性別（国内・国際、卒業年度、学部）



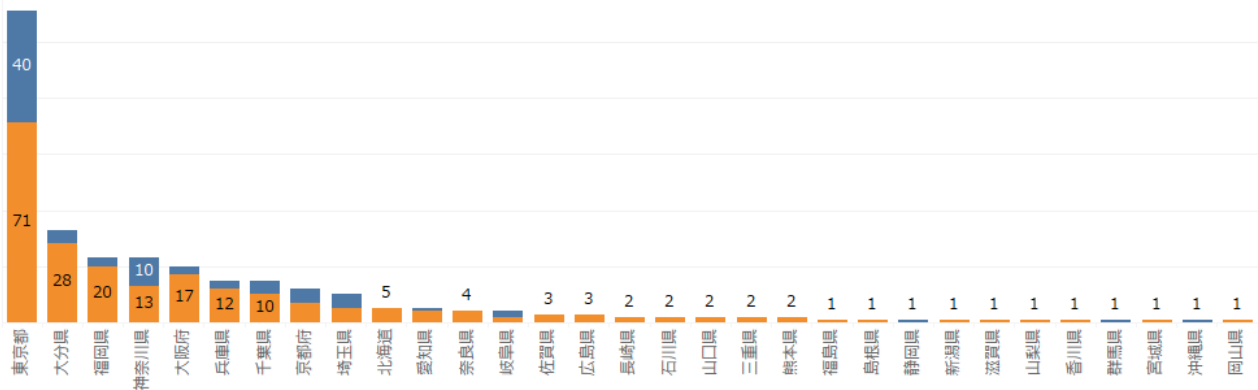
現在の居住地の分布を示す。日本が最も多く、次いでインドネシア、タイ、中国、ベトナム、と続く。国内在住者の都道府県別では東京が最も多く、次いで大分県、福岡県、神奈川県、大阪府、兵庫県と続く。

## 現在の居住地

現在の住まい（国別）



現在の住まい(都道府県)



## 大学時代の様子

在学中の様子として成績、学修時間、留学経験について質問した回答結果を示す。成績（自己認識）は「真ん中からやや上位」から「上位」という回答が多く、成績優秀層であったと自覚がある卒業生が約半数となっている。1週間当たりの学習時間については「10時間以上」が最も多く、10時間以上から20時間以上の回答を合わせると半数以上となり少なくとも1日約85分学習に費やしていたことが分かる。在学中の留学経験は42.4%が「ある」と回答している。

第一世代（First Generation College Students）に関する質問は SDGs への取り組みや大学ランキングで利用される指標であることに鑑み、今回以下の説明文を付した上で質問を行った。First Generation で「ある」と回答した割合は 33.4%であった。

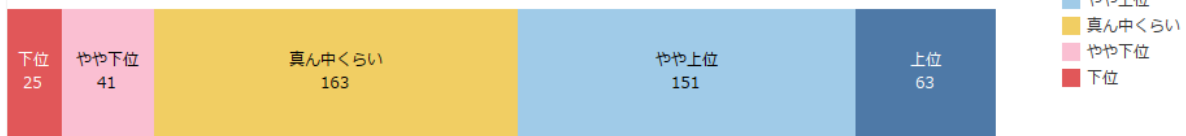
APU はインクルーシブな社会の実現を目指し、SDGs の「Goal4 質の高い教育をみんな」に Goal10「人や国の不平等を無くそう」へのアプローチを行なっています。

社会構造的な教育機会の不平等を解消し、異なる環境で育った多様な学生が集う大学づくりをミッションの一つと捉え、First Generation students 第一世代大学生への支援を検討しています。

この設問は APU における First Generation students の実態を把握するために設けています。任意での回答となりますのでご協力いただける場合のみご記入ください。注）First Generation students とは、一般的に両親が大学学位を持たない（大卒ではない）学生のことを指します

### 在学中の様子

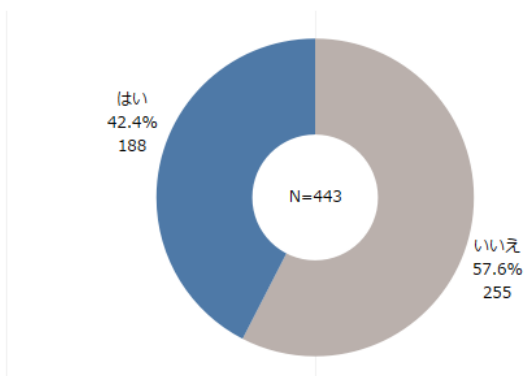
あなたの在学中の成績はどれくらいだったと思いますか。



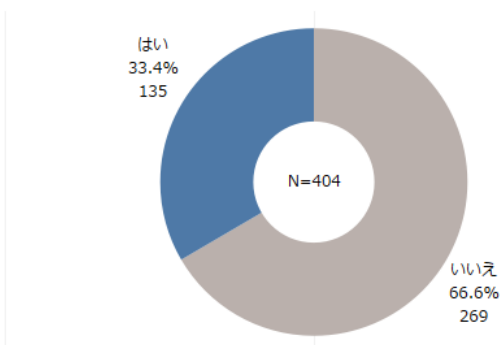
あなたは、大学在学中、1週間あたり平均でどのくらい「自主学習」をしていましたか（授業の予習、復習、課題、日常的な学習時間）



あなたは大学在学中、留学（海外短期研修や国際ボランティアなどを含む。海外旅行は除く）の経験がありますか



あなたは両親が大学学位を持っていない（大卒ではない）「第一世代大学生」（First Generation College Students)にあたりますか？（任意）



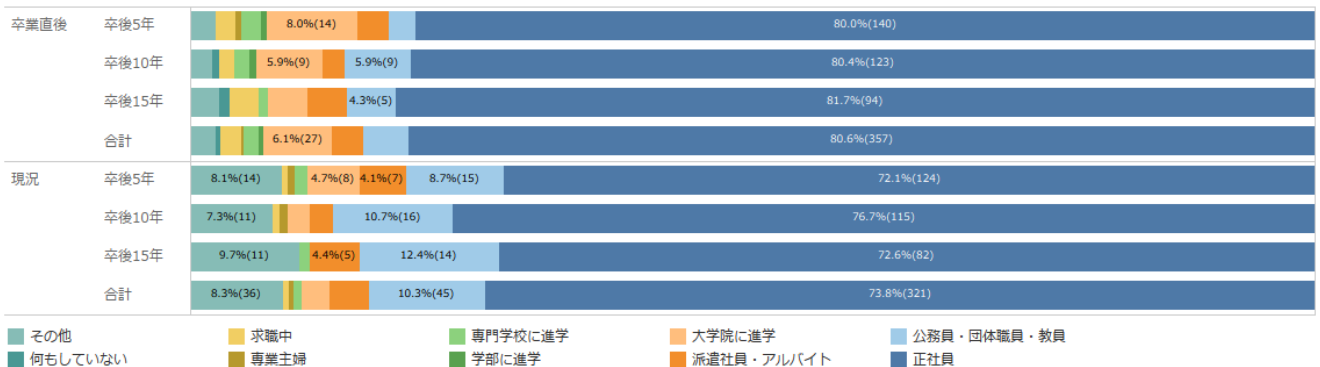
# 大学卒業後の様子

## 卒業直後の進路と現在の職業

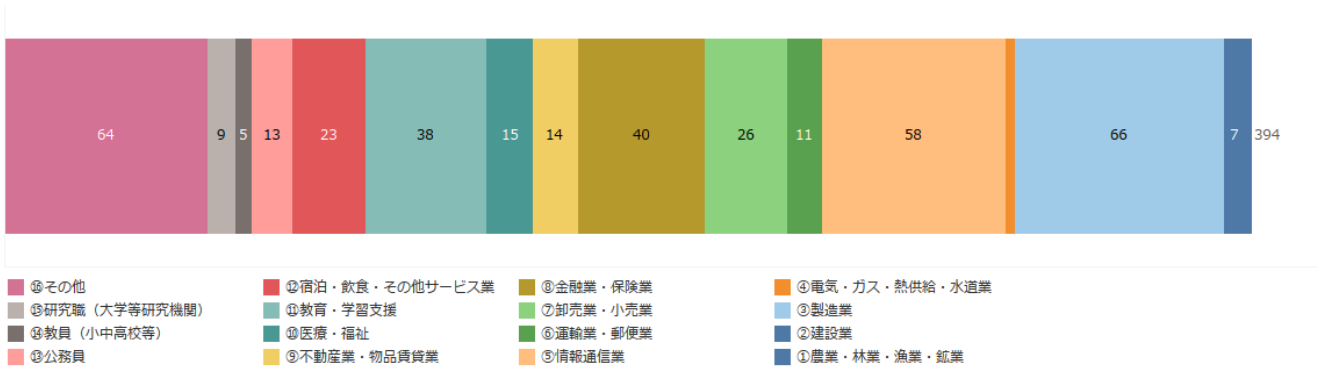
卒業後の進路は 80.6%が「正社員」と回答しているが、現況では「正社員」は 73.8%に減少し、代わりに「公務員、団体職員、教員」が 4.1%から 10.3%に上昇している。また、卒業直後は 2.3%だった「その他」が現況では 8.3%に上昇し、卒業後に様々なキャリアに変化していることがわかる。また、卒業後の経過年数別に見ると、卒業直後に「大学院に進学」と回答した卒業生は卒後 15 年では 3.5%だったのに対し、卒後 5 年の卒業生は 8.0%となっており、増加傾向にある。

### キャリアパス①

あなたが大学を卒業した後の進路として当てはまるものを1つ選んでください (上：卒業直後、下：現況)



就業している方にお聞きします。あなたの現況として当てはまるものを1つ選んでください (職種)



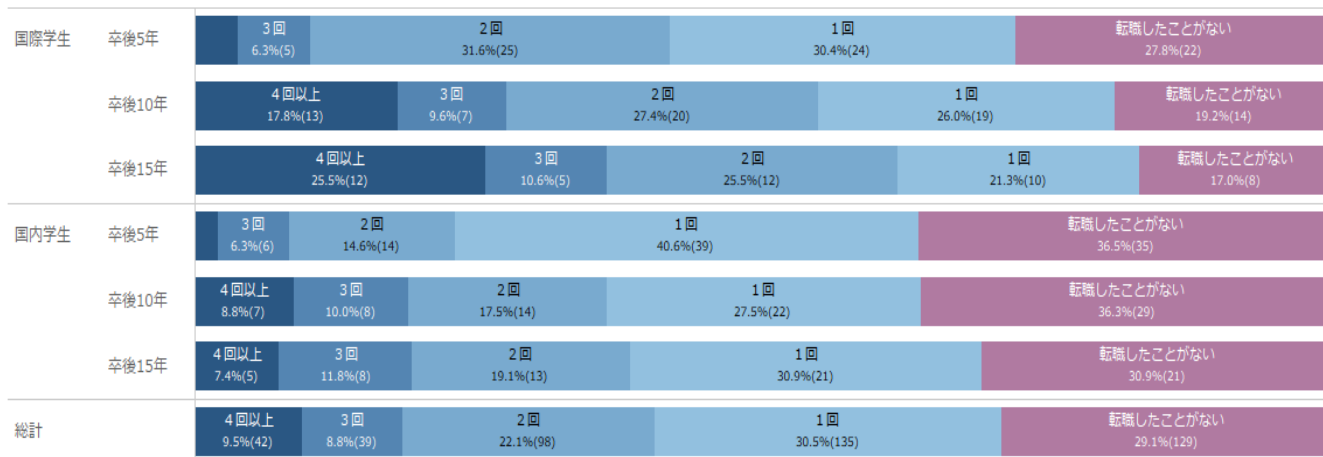
## 海外での就業経験と転職経験

海外での就業経験と転職経験についての回答を国内学生、国際学生、卒業後経過年数別に集計したものを以下に示す。転職に関しては、全体の 70.9%に転職経験があり、国際学生の方が国内学生よりも割合が高く、また転職回数多い。母国以外で 3 か月以上の就業経験については全体では 44.7%があると回

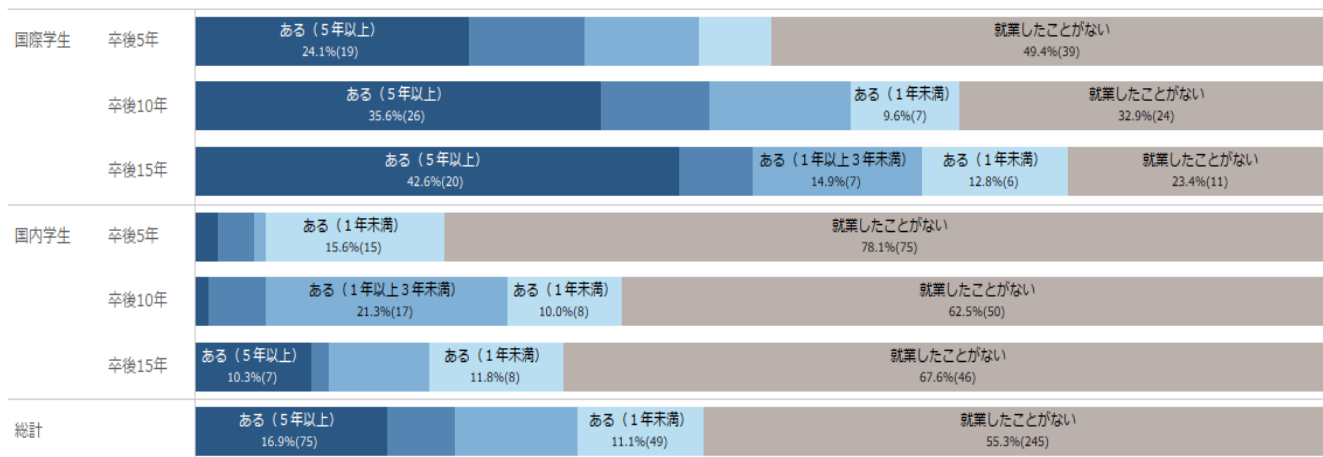
答し、国際学生は卒業後の年数が経過するに伴い、海外就業経験率が高くなる傾向があるが国内学生にはその傾向は見られない。

## キャリアパス②転職・海外就業経験

あなたは転職したことがありますか



あなたはこれまでに母国以外での3ヶ月以上の就業経験はありますか





## 卒業後に修得した学位や資格

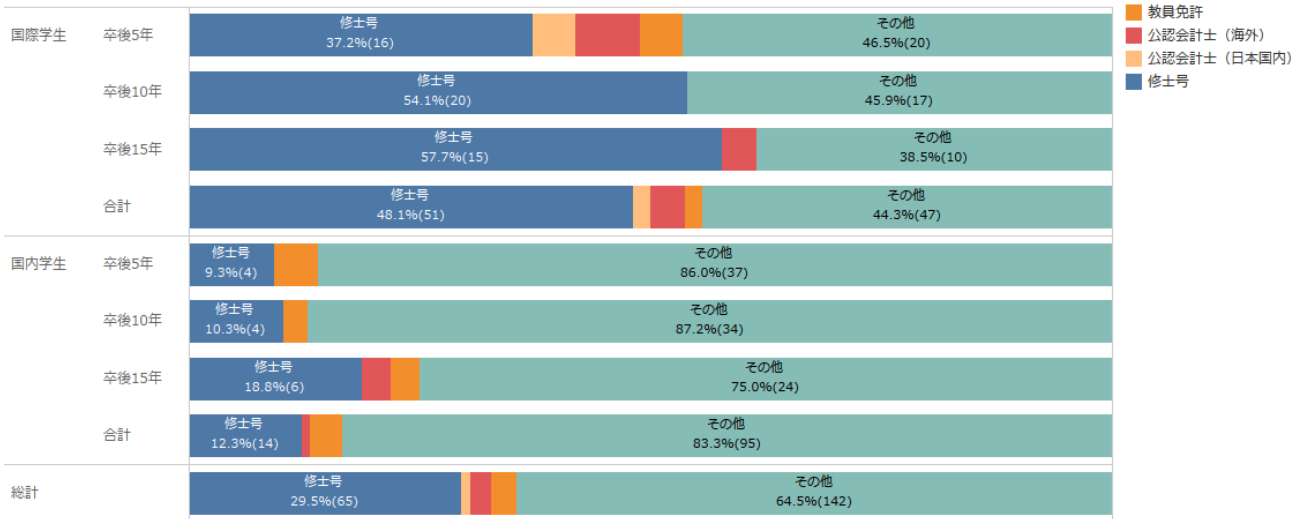
卒業後に取得した学位、資格、免許に関する質問の回答を以下に示す。全体の半数が卒業後に何かしらの学位、資格、免許（以下、学位資格等）を卒業後に取得している。取得した学位資格等は「修士号」が最も多く、学位資格等を取得したと回答した卒業生のうち 29.5%が「修士号」であると回答している。特に国際学生は、学位資格等を取得した卒業生のうち 48.1%は「修士号」を取得したと回答していて、国内学生の 12.3%よりも多い。

### キャリアパス③ 卒業後の資格取得

あなたは卒業後に新しい学位、資格、免許を取得しましたか？



卒業後に取得した学位、資格、免許を選択してください。



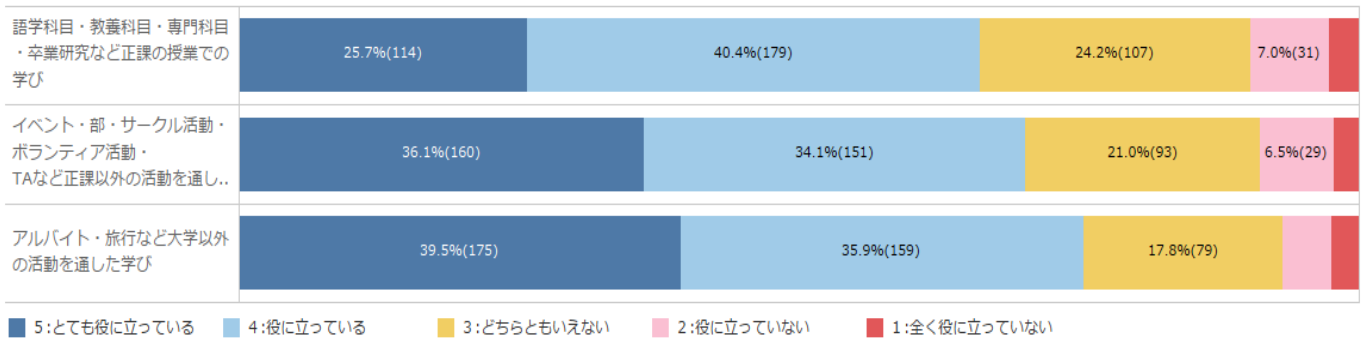
# 大学に対する満足度

大学時代の学びや経験を「正課での授業」「TA・イベント・サークル活動など正課外」「アルバイト、旅行など大学以外」の3つに分けてそれぞれ「現在の仕事や生活にどのくらい役に立っているか」を5段階で質問した。3つの項目を合わせて見ると「役に立っている」の回答が約70%、「どちらとも言えない」、「役に立っていない」の合計が約30%となった。上記3つの分類の中では、「アルバイト、旅行など大学以外の活動」への肯定回答が最も高く75.4%が役に立っていると回答した。

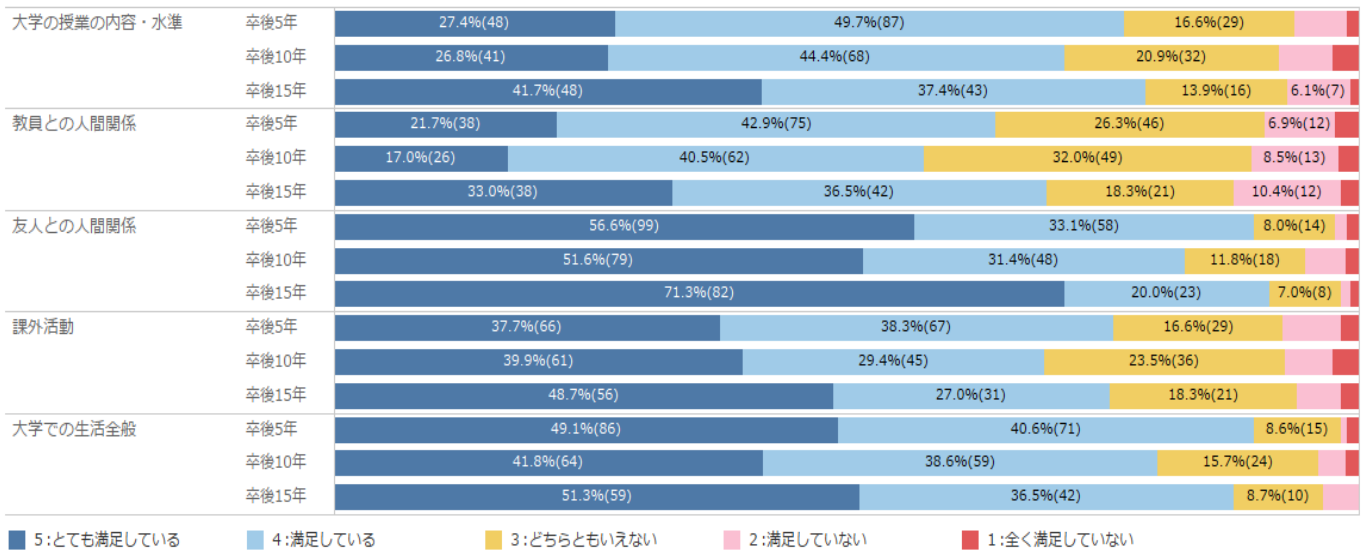
次に、大学時代の教育や学生生活を「大学の授業の内容」「教員との関係」「友人との関係」「課外活動」「大学での生活全般」の5つに分け、それぞれ「どの程度満足しているか」を同じく5段階で質問した。「友人との人間関係」の満足度が最も高く、87.8%が「満足」と回答した。「教員との関係」は64.4%が満足と回答し、5つの項目の中では最も低かった。卒業後の経過年数別に見ると、卒後10年のグループが卒後5年、15年のグループと比較し、全体的にやや満足度が低い結果となった。

## 満足度①

大学時代の学びや経験はあなたの現在の仕事や生活にどのくらい役に立っていると思いますか。



あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。

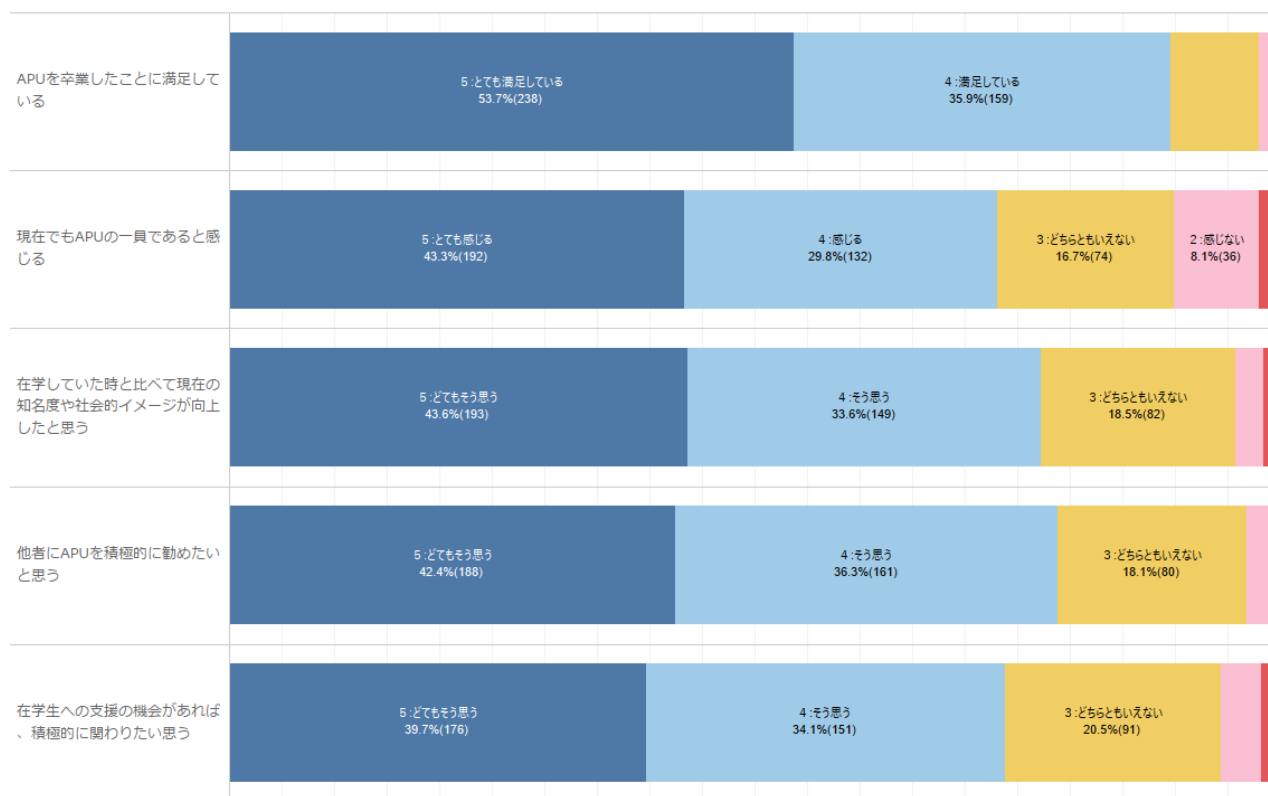


APUに対する感情を「APUを卒業したことを満足している（満足度）」「現在でもAPUの一員であると感じている（帰属意識）」「APUの社会的イメージへの見解」「APUを他者に勧めるかどうか」「学生への支援意欲」の5つに分けてそれぞれ5段階で質問した。満足度は89.6%が満足と回答している。「現在でもAPUの一員であると感じている（帰属意識）」は73.1%、「APUを他者に勧めるかどうか」は78.7%が肯定的な回答をしている。

また、73.8%が「機会があれば在学生支援に積極的に関わりたい」と回答しており、大学からの個別ヒアリングへの協力を承諾する回答が69.8%あり、支援意欲を持った卒業生がいることが分かる。また、77.2%が自身の在学時よりもAPUの知名度や社会的イメージが向上したと感じている。

## 満足度②

現在、APUに対してどのように感じていますか。



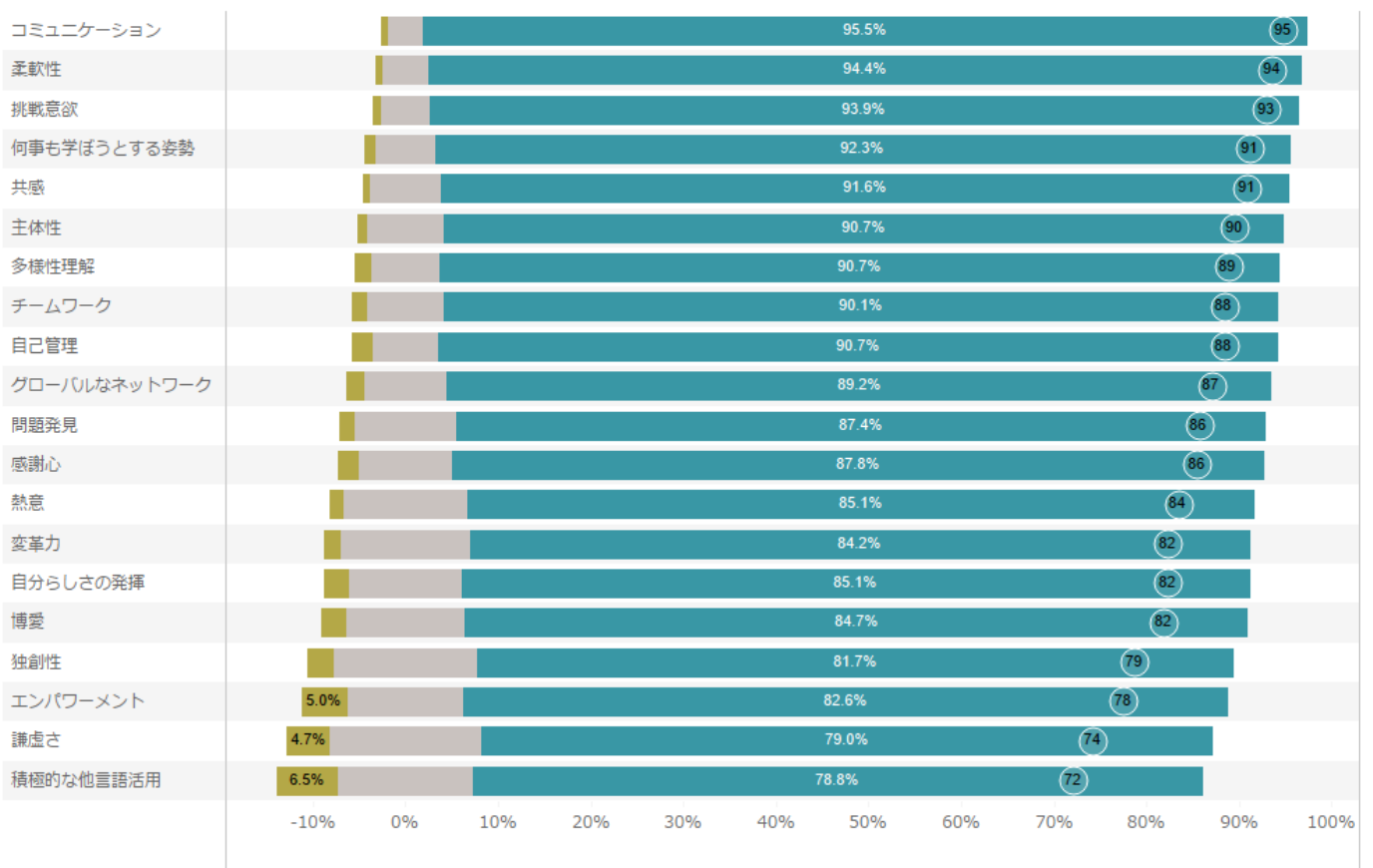
## 卒業生が考える重要なコンピテンシー

APUルーブリックの20のコンピテンシーについて、卒業生が自身の仕事や生活においてどのくらい重要と感じているかを5段階で質問した結果をNPS（Net Promoter Score）と共に示す。NPS（Net Promoter Score）は5「とても重要」、4「重要」と答えた回答者を「肯定者」、3「どちらとも言えない」を「中立者」、1「全く重要ではない」と2「重要でない」と答えた回答者を「批判者」と分類し、回答者全体に占める肯定者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いて出てきた数値である。推奨者が多く、批判者が少ないほどスコアは上がる。以下は肯定者が多いコンピテンシーの順番に並べたものである。肯定者が最も多かったコンピテンシーは「コミュニケーション」（95.5%）、「柔軟性」（94.4%）、「挑戦意欲」（93.9%）、「何事も学ぼうとする姿勢」（92.3%）その後、「共感」「主体性」「多様性理解」「チームワーク」と続く。

### コンピテンシー（NPS®）

以下の項目は、APUが学生に身に付けて欲しいと考える資質や能力です。  
これらの資質や能力はあなたの現在の仕事や生活においてどのくらい重要だと思いますか。

■ Positive  
■ Negative  
■ Neutral



NPS（Net Promoter Score）5「とても重要」、4「重要」と答えた回答者を「肯定者」、3「どちらとも言えない」を「中立者」、1「全く重要ではない」と2「重要でない」と答えた「批判者」と分類し、回答者全体に占める肯定者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いて出てきた数値。推奨者が多く、批判者が少ないほどスコアは上がる。